

## 「抗菌技術と市場動向 2016」

株式会社シーエムシー出版

(282ページ, 定価75,000円(税別), 2016年1月27日発行)

抗菌技術は、日本発の“抗菌文化”であり、国内の抗菌加工製品は年間1兆円を超える市場を形成し、クールジャパンのひとつとして、徐々に海外に拡大すると考えられている。

以前から抗菌剤という機能材料は存在したが、日本において1980年代から身の回りの製品が抗菌加工されるようになり、1998年に抗菌製品技術協議会(SIAA)が発足し、1999年に通産省(当時)が抗菌加工製品のガイドラインを発行しました。また、2000年に抗菌加工製品の試験法としてJIS Z 2801が制定され、ほぼそのまま2007年に国際規格ISO 22196が発行されました。

このように、日本で誕生した抗菌技術やルールは、文化として今後も広がるのが期待され、いつかは世界中に「KOHKIN」の名称が定着するかも知れません。

さて、本書は、このような約30年の抗菌技術の歴史を踏まえ、2016年時点の技術と市場を解説しています。

【開発編】様々な抗菌剤を分類し、その特徴を解説し、加工方法例なども紹介。

【市場編】抗菌市場について、抗菌剤メーカーの動向、用途分野別の動向、さらには海外の動向として法規制なども解説。

弊社は、1984年に世界で初めて銀系無機抗菌剤の製造・販売を開始したことから、日本の抗菌技術の発展や成長と共に歩んで来た感があり、約30年が経過した現在においても、本書のように多岐に渡って抗菌技術が紹介・解説されていることに対して感慨深いものがあります。

本書は、現在の抗菌技術と市場動向を網羅しており、今から抗菌技術を活用することをお考えの方々には、非常に参考になる内容であると思います。

最後に、今後も抗菌技術が、人々の生活や社会問題の解決に寄与することを切に願っております。

(株式会社シナネンゼオミック 工藤清孝)

